

令和7年度佐賀市農業・農村活性化推進会議 【質問・意見】

令和8年2月9日（月）10時00分～11時40分

佐賀市役所大和支所3階第四会議室

【議事（1）第4次佐賀市農業振興基本計画の概要について】

意見なし

【議事（2）令和6年度の進捗状況等について】

【基本目標1】稼ぐ農業の確立

委員

【資料3】指標No.3と4について、今後高齢化が進む中で園芸作物の生産面積や家畜頭数を増やすのは正直難しいと思います。例えば、ここの目標を下げて他の分野に注力するということも考えられますがいかがでしょうか？

事務局

No.3園芸につきましては、佐賀県が進める「さが園芸888整備支援事業」が進められており、佐賀市としても高い目標ではございますが、目標達成に向けて事業を進めていきたいと思っています。

また、No.4家畜頭数については、今のところ大きな減少がみられないため、できるだけ減らさないという方向で施策を進めていきたいと思っています。

【基本目標2】担い手の確保・育成

委員

【資料3】指標No.12について、この新規就農者数には、どのような属性の方が含まれるのか教えてください。親元就農やトレーニングファームの数は含まれる、あるいは含まれないなど。

事務局

新規就農者数には、Uターン、新規就農者、新規学卒者を含めた実績となっております。佐賀市ではUターンの方が5割程度を占めている状況です。

委員

新規就農者への支援策に関して意見がありまして、私の知っている新規就農者で、農地のある場所がA町、住所がB市という方がいまして、A町からは「住所がA町でないから支援対象外」と断られ、B市からは、「B市に農地がないから支援対象外」と断られている状況です。住所地や就農地がどこであれ新規就農者に補助が与えられるような制度設計になればいいなと思います。

事務局

新規就農者総合対策事業の補助についてですが、基本的には「就農地である自治体で補助を受ける」というのが原則となりますが、自治体によって特別な要件を設定されているところもあると聞いております。県と市町が協力して、新規就農者がス

ムーズに就農できるような支援を佐賀市としてもやっていきたいと考えております。

【基本目標３】農地の保全と利用促進

委員

【資料３】指標No. 17に関連して、平地ではカモによる麦の食害が深刻でして、佐賀市から圃場への進入防止用の黄色いテグスの配布がありました。他にも全国的に先進的な取り組みがたくさんあると思いますので、情報をピックアップして佐賀市から農家に紹介してもらえたらと思います。

事務局

佐賀大学でカモの研究をされているため、何がカモに効果があるのか情報をもらいながら、佐賀市でも検証を試みてきました。一般的にテグスや吹き流しが効果的だと言われますが、状況によって効果がないケースもありますので、引き続き関係機関から先進的な情報を取り入れながら対策をとっていききたいと思います。

委員

佐賀市の山手ではイノシシの被害が増えており、農業を続けるのが困難という方もいらっしゃいます。そこで、例えばプロの猟師を育成するために予算を使ってもよいと考えますがいかがでしょうか。

事務局

佐賀市では鳥獣の捕獲に関して佐賀市猟友会に委託をしております。現状イノシシの捕獲頭数の９割が「わな」、１割が「銃」という状況になっておりますが、猟友会から「銃の対策を強化したい」という話がありますので、そのあたりの見直しも含めて今後も捕獲対策に力を入れていきたいと思います。また、新たな捕獲者の養成についても併せて検討していきたいと思います。

【基本目標４】地域内循環の促進

意見なし

【基本目標５】農のあるまちづくりの推進

委員

【資料３】指標No. 21～23やNo. 30に関連して、SNSが中学生・高校生・大学生と若い人の間で非常に活発ですから、子どもたち向けに農業体験やグリーンツーリズム等のイベント情報を流すことで、子どもから親が情報を得るケースもあると思います。子どもたちを情報発信のターゲットにしてもよいと思いますがどうでしょうか。

事務局

現状では、高校生や大学生にスポットを当てたSNSを活用した情報発信はできておりません。子どもたちに情報を届ける手法につきましては、今後勉強していきたいと思います。

【その他の質問・意見等】

委員

最近、夏場とても暑いため、高温対策に係る補助というのは難しいでしょうか。
また、全ての指標・分野に関するのですが、先進的な取り組みをされている自治体というのが県内外あると思いますので、市職員が直接現地に足を運んで勉強に行かれたらいいと思いますが、いかがでしょうか。

事務局

今佐賀市にある補助事業の中で、なんとか高温対策についても補助ができるように考えていきたいと思います。
また、先進地視察につきましても今まで以上に積極的に伺いまして、知識や技術を佐賀市の農家さんに還元できるようにしていきたいと思います。

委員

施設園芸をするにあたり、東与賀や川副はクリークの水の状態が良くないため、水道管をハウスに引いて水をあげるといふ農家がいらっしゃるが、コストがかかるため、水道水利用に対する助成金というのを検討していただけないでしょうか。

事務局

農作物を作るにあたって水問題は必ずつきまとうものですので、今回のご意見を県に共有するとともに、今後の補助事業について相談していきたいと思います。

委員

現在、トレーニングファームは、ほうれん草、ピーマン、アスパラガスといった野菜で支援があると思いますが、米・麦・大豆といった土地利用型作物でトレーニングファームを実施される計画はありますか？

事務局

米・麦・大豆でトレーニングファームを行う場合、研修後、独立自営就農する際にある程度まとまった農地と機械設備が必要となります。そのため大規模農家や法人等での研修先への要請等を含めて検討していきたいと思います。また、白石町で米・麦・大豆のトレーニングファームを試行的にやられておりますので、佐賀市でどのようなことができるか参考にしていきたいと思います。

委員

新規就農者への補助金が支給される時期が年に2回（9月・3月）と間隔が広いため、生活が組み立てにくいという声もありますが、いかがでしょうか。

事務局

そういう声をお聞きすることがありますが、新規就農者への経営開始資金補助金については、現行の制度上、年間150万円を年に2回支給となっておりますので、国の交付決定時期についても要望を上げていきたいと思います。

以上